

平成30年度豊岡市障害者自立支援協議会報告書

【しごと部会】

【会 議】 第1回（5月29日） 第2回（6月11日） 第3回（7月9日） 第4回（8月6日） 第5回（9月10日） 第6回（10月9日） 第7回（10月22日） 第8回（11月5日） 第9回（12月10日） 第10回（1月8日） 第11回（2月12日）

【しごと部会】	現状と課題	あるべき姿	今年度の方針	活動目標	部会で取り組んだこと	下半期の取り組みから 見えてきたこと	今後の方針	豊岡市への提言
	働き手が必要な企業が多くあるにも関わらず、障害者雇用の募集は少ない。	障害者雇用に積極的に取り組んでいる企業を紹介し、理解や企業の取り組みを伝える。	障害者の就労に関する理解や企業の取り組みを伝える。	障害者雇用に取り組んでいる企業を市広報に紹介する。	【上半期の取り組み】 企業インタビュー ①目的 障害者を雇用している企業の取り組みを市広報により紹介し、障害者雇用に対する理解を深め、障害者雇用の拡大を図る。 ②インタビュー企業 社会福祉法人あまのほ（楽々むら） ③インタビュー時期 平成30年10月9日（火） 14時00分～16時00分 ④インタビュー内容 雇用状況、きっかけ、感想、支援方法、当事者の声等 【下半期の取り組み】 ⑤広報発行時期 平成31年3月号（2月25日発行）〔添付資料①〕	・即効性は低く、効果の測定も難しい取り組みであるが、様々な業種を紹介していくことにより、障害者を雇用していない企業の意識も変化してくるのではないかと考える。	継続した取り組みを予定しているが、市広報による周知にも限界があるため、情報媒体等を再度検討することも考えなければならない。	
	障害者の就労を支援する就労系障害福祉サービス事業所において、障害者の一般就労に関する取り組みが進んでいない。	就労系障害福祉サービス事業所の一般就労に向けた取り組みが活発になり、障害者に一般就労につながっている。	就労系障害福祉サービス事業所における障害者の一般就労に対する意識向上と支援員のスキルアップを図る。	就労系障害福祉サービス事業所のサービス管理責任者担当者会の実施により、課題を抽出した後、課題解決に向けたスキルアップ研修を実施する。	【上半期の取り組み】 「第1回サービス管理責任者担当者会」 ①目的 就労支援に対する「現状と課題」を共有し、就労支援の課題抽出と解決に向けた優先順位を調査する目的のグループワークを行う。その結果を元に、就労支援に関する研修会を開催することを目的とする。 ②日時 平成30年8月22日（水） 13時30分～15時30分 ③場所 コワーキングスペース フラップ豊岡（じばさん5階） ④参加者 就労系障害福祉サービス事業所サービス管理責任者 12名 自立支援協議会しごと部会関係者 12名 【下半期の取り組み】 「第1回サービス管理責任者担当者会」の振り返りを行った結果、課題の整理が必要なため、「第2回サービス管理責任者担当者会」を一時中止とした。	・第1回サービス管理責任者担当者会の結果、運営方法、人員、報酬等、就労支援以前の課題が山積しており、就労に関するスキルアップや協議を行える状況にない。 ・就労を希望されている障害者への就労支援については、就労系障害福祉サービス事業所職員の支援技術の向上及び意識の向上が求められている。 ・就労系障害福祉サービス事業所間のネットワークがあると情報共有でき、ボトムアップに期待できる。	①就労を希望されている方や就労を希望されているが不安を抱えている方を把握していく。方法については検討中である。 ②就労を希望されている方や就労を希望されているが不安を抱えている方に対し、就労セミナーや企業見学会等を実施する。 ③以上の取り組み経過や実績について、サービス管理責任者担当者会で情報共有する。	

平成30年度豊岡市障害者自立支援協議会報告書

【こども部会】

【会 議】第1回（6月6日） 第2回（7月3日） 第3回（8月16日） 第4回（9月6日） 第5回（10月4日） 第6回（11月1日） 第7回（1月17日） 第8回（2月7日）

	現状と課題	あるべき姿	今年度の方針	活動目標	部会で取り組んだこと	下半期の取り組みから 見えてきたこと	今後の方針	豊岡市への提言
【こども部会】	障がいのある子どもを育てる保護者同士の横のつながりを深める場が必要	横の繋がりを深めていく中で、子育ての孤独感や不安感が軽減される。	保護者の横の繋がりを深める場として「お話カフェ」の継続的な開催	「お話カフェ」開催	【上半期の取り組み】 ①開催に向けて、保護者代表（複数名）との意見交換実施 ②お話カフェ（第1回目）開催 【下半期の取り組み】 ①「お話カフェ」（第2回目）開催〔添付資料②〕 日にち：平成30年12月6日（木） 時 間：10:00～12:00 場 所：立野庁舎 多目的ホール 目 的：保護者同士の横の繋がりをつくる 参加者：14名 ②地域の社会資源の活用 日高の通所事業所と保護者から、エリア（旧町単位）での座談会を始めてみたいとの声が聞かれている。	・保護者同士の繋がりが少しずつ生まれているが、深めるまでには至っていない。 ・他エリアの保護者と繋がりが情報交換する場として、豊岡市全域での「お話カフェ」を継続する。 ・身近に気軽に集まり話せる場として、エリア（旧町単位）での「お話カフェ」を開催する。	・豊岡市全域での「お話カフェ」…「地域課題を抽出する場」としての視点を持ちながら、保護者との協働開催を継続したい。 ・エリア（旧町単位）での「お話カフェ」…保護者の主体性を育み、自助組織を目指したい。	
	子どもや保護者を中心とした、他機関・多職種連携の在り方の検討	子どもや保護者を中心とした顔の見える関係（繋がり）ができる。	他機関との連携の在り方を検討していく一歩として、福祉分野間の相互理解（サービス等利用計画と個別支援計画との連動）について検討	サービス等利用計画と個別支援計画の連動について検討	【上半期の取り組み】 サービス等利用計画と個別支援計画の連動について、現状を共有 ※サービス等利用計画とは …相談支援専門員が作成する本人の総合的な支援計画 ※個別支援計画とは …サービス等利用計画を踏まえ、障害福祉サービス等事業所が作成するサービス提供の具体的な支援計画 【下半期の取り組み】 ・実在するケースを元に、支給決定プロセスに沿って、相談支援事業所やサービス提供事業所、各々の動きや役割について共有した。 ・本人の望む暮らし（100文字要約）が、サービス等利用計画や個別支援計画に落とし込めているのか、検証した。 ※本人の望む暮らし（100文字要約）とは …利用者本人を主人公に、なりたい自分、望む暮らし、夢や希望などを100文字程度の文章にまとめること。	・子どもの成長や発達に対する課題や希望など、保護者や相談支援専門員の見立てと、サービス提供事業所の見立てがそれぞれ異なる事がある。 ・本人の望む暮らし（100文字要約）を軸に、相談支援専門員とサービス提供事業所が互いの計画を共有し、支援方針を一致させる事が必要であったが、十分でなかった。	・新規ケースを元に、支給決定プロセスに沿って進めながら、サービス等利用計画と個別支援計画の連動のあり方について再検証していく。 ・検証した結果や成果について、地域の障害児福祉に携わる支援者と共有できる場面を設定する。 ・ライフステージに応じた一貫した支援（縦横連携や移行期支援）についての検討へ繋げていく。	

平成30年度豊岡市障害者自立支援協議会報告書

【せいかつ部会】

重症心身障害者（児）の支援を検討するプロジェクトチーム

【会 議】第 1 回(6月26日) 第 2 回(8月9日) 第 3 回(9月18日) 第 4 回（12月19日） 第 5 回(1月7日) 第 6 回会(1月24日) 第 7 回（2月12日） 第 8 回（2月19日）

【せいかつ部会】重症心身障害者（児）の支援を検討するプロジェクトチーム	現状と課題	あるべき姿	今年度の方針	活動目標	部会で取り組んだこと	下半期の取り組みから 見えてきたこと	今後の方針	豊岡市への提言
	①在学中や卒業後の重心の方の日中活動の場が少なく、利用を希望しても利用できない場合が多くある。 ②家族が緊急時に短期入所を利用したくても受け入れ可能な場所がなく、本人・家族に大きな負担がかかっている。	①在学中や卒業後に本人、家族が必要なだけのサービスを受けることが出来る。 ②家族の緊急時等（慶弔時や体調不良時）に短期入所を利用し、支援を受けることが出来る。	実態調査を実施し現状を把握するとともに、調査結果に基づき対応策を検討する。	・実態調査の実施 ・結果の分析 ・対応策の検討	【上半期の取り組み】 ・昨年度の流れを新メンバーで共有 ・今後豊岡市において実施予定の実態調査項目との調整 ・依頼文、調査票内容の確認と修正 ・調査実施方法の確認 ・調査対象者の再調査 ・相談支援グループへの依頼 【下半期の取り組み】 ・実態調査の集計 ・調査結果の課題整理 ・課題に対する対策の検討	実態調査が終了し、部会にてデータの集計、分析を行うとともに、明らかになったニーズに対する対応策について、他市町の取り組みも参考に検討した。 その結果については、別添「重症心身障害者（児）及びその介護者の実態調査報告書」を参照	昨年度より取り組んできた実態調査が終了し、結果の集計、分析、課題整理と対策について部会内にて話し合い、報告書を作成した。 今後は新たに設置される「豊岡市医療的ケア児者支援連絡会議」において調査結果を活用していただき、課題についての取り組みを進めていただくこととなる。（医療的ケアが必要でない重心の方も含む）	実態調査結果に基づき、部会内で課題の整理と対応策についての提案をまとめた。 別添「重症心身障害者（児）及びその介護者の実態調査報告書」を参照
	新生児（重症心身障害児）の方がNICU（新生児集中治療室）から在宅へ戻るにあたり小児の訪問看護を受けている事業所も少ない等、家族を支える仕組みが乏しいため、その後地域で生活する中で本人・家族が孤立しがちになり十分な支援を受けることが出来ていない状況がある。	NICU（新生児集中治療室）から在宅への移行の際、退院前にチームを作って支援を整える等、家族を支える仕組み（マンパワーのみならず金銭面においても）があり、十分な情報の下、在宅での生活を安心して過ごすことが出来る。	関係機関の役割・連携について現状を把握し、役割・連携を見える化する。	役割・連携を見える化するツールの作成	【上半期の取り組み】 ・昨年度の流れを新メンバーで共有 【下半期の取り組み】 ・実態調査を優先し取り組み出来ず	下半期未実施	新たに「豊岡市医療的ケア児者支援連絡会議」が設置されるに伴い、ここであげられた課題に関しても実態調査同様、引き継いでいく。	

平成30年度豊岡市障害者自立支援協議会報告書

【せいかつ部会】

住居について検討するプロジェクトチーム

【会 議】第1回（7月17日） 第2回（7月25日） 第3回（8月29日） 第4回（10月23日） 第5回（11月15日） 第6回（11月26日） 第7回（1月17日） 第8回（2月12日）

[illegible]

平成30年度豊岡市障害者自立支援協議会報告書

【相談支援グループ】

【相談支援グループ】	【上半期】 ・移動支援について ・入浴を望む障害者の入浴について ・高齢障害者の介護保険への併用及び移行について	
	【下半期】 □サービス等利用計画の記載の仕方について 開 催 日：第7回（平成30年11月21日） 内 容： 一人事業所が多い中で、計画の立て方、記載の仕方に不安を抱えている相談員が多い。 事例をもとに市社会福祉課障害福祉係の支給担当者とグループワークを行った。 事業所により記載の仕方等に違いがみられる。日本相談支援専門員協会発行の「サービス等利用計画作成サポートブック」を参考に作成する必要があるが、市担当者と事例をもとに話し合いの場を持つことで、相談支援専門員と市担当者との目線合わせができる。 今後もこのような機会を設けながら、忌憚なく話し合いのできる関係を築いていく。	【相談支援グループの課題】 相談支援専門員の資格を取得するも経験が2年弱以下の相談支援専門員も多く、ケアマネジャーと兼務している相談支援専門員も多い。今後も制度や相談支援スキルについて育成が必要である。 下半期の相談支援グループ会議が、勉強会や研修等に偏りがあったため、地域課題を抽出していく機能が弱かった。 各相談支援事業所の受け持っている計画相談が飽和状態で、待機者も出ており、新規相談が受けられない。
	□相談支援に係る加算について 開 催 日：第8回（平成30年12月19日） 内 容： 今年度制度改正及び報酬改定が行われ、相談支援にも質の高い支援の実施や専門性の高い相談支援体制を評価されるよう、加算が創設された。 しかし、実際に加算を取っている事業所が少ないことから、現状と課題の抽出を行った。 また、相談支援専門員によっては、加算の解釈や捉え違いがあったため、相談支援で新設された加算一覧表を作成し共通認識が持てるようにした。 現状と課題： 加算を取ることに慣れていないので算定したが不安。 加算単位数のわりに各様式記載に係る手間と時間が大きいため、加算を取るのをあきらめてしまう。 日々のケースワークが忙しく、加算単位数を取得するための各様式記載に係る時間が取れない。 ※比較的加算しやすいものからチャレンジし、様式等改善の余地があるものについては今後提案していく。	【来年度の方針】 事例検討やグループワーク等を行い、一人の困りごとや生きづらさにスポットを当て、個別課題と地域課題に整理していく。抽出した地域課題については運営会議に課題提起する。 各相談支援事業所が多くの計画相談を抱える中で、本人を中心とした質の高い計画相談を実施していくために、豊岡市としての相談支援体制を整えていく必要がある。相談支援グループとしても運営会議に課題提起していく。
	□高齢障害者の介護保険への併用及び移行について 開 催 日：第9回（平成31年1月16日）第10回（平成31年2月13日） 内 容：第9回（平成31年1月16日）『高齢障害者のサービス等利用計画とケアプランについて』 「介護支援専門員にプランを一本化した事例」「介護支援専門員と相談支援専門員それぞれにプランを持っている事例」「介護保険へ移行または障害福祉サービスと併用している場合困ったこと、うまくいったこと」など課題抽出を目的としたグループワークを行った。 第10回（平成31年2月13日）『研修会「介護保険の基礎知識」』 地域包括支援センターの職員を招き、介護保険制度等を研修した。 ※高齢障害者の介護保険への併用及び移行について課題の整理を行う。スムーズに介護保険につなぐためには豊岡市としての移行スタイルを作る必要がある。また、ケアマネジャーと顔の見える関係づくりも必要となってくるため、関係部署とも相談しながら研修会など実施していく。	